

青森県労働委員会年報

平成30年

青森県労働委員会事務局編

はじめに

この年報は、平成30年1月から12月までの1年間に当労働委員会で取り扱った不当労働行為事件及び調整事件の処理状況を中心に、委員会の活動状況等の概要を収録したものです。

この年報が、労働委員会への理解を深めていただく一助となり、日頃労使関係に関心を寄せておられる方々の御参考となれば幸いです。

平成31年3月

青森県労働委員会事務局

第 4 7 期 委 員

平成30年11月8日任命

◎公益委員



会長
大澤 一實



会長代理
岩谷 直子



大矢 奈美



伊藤 佑輔



細矢 浩志

◎労働者委員



山内 裕幸



小野 武司



谷川 浩二



内村 隆志



野坂 聡子

◎使用者委員



北村 真夕美



寺下 一之



藤本 和夫



斎藤 悦朗



小笠原 裕

目 次

第1章 現況

1 委員名簿	1
2 あっせん員候補者名簿	3
3 事務局職員名簿	4

第2章 活動状況

第1節 会議	5
1 総会	5
2 公益委員会議	9
3 連絡会議	10
(1) 全国労働委員会連絡協議会総会	10
(2) 全国労働委員会会長連絡会議	10
(3) 全国労働委員会事務局長連絡会議	11
(4) 全国労働委員会事務局審査主管課長会議	11
(5) 全国労働委員会事務局調整主管課長会議	11
(6) 北海道及び東北六県労働委員会連絡協議会総会	12
(7) 北海道及び東北六県労働委員会連絡協議会研修会	12
(8) 北海道・東北六県労働委員会事務局連絡会審査・調整課長連絡会議	13
4 労働相談会	14
5 委員研修	15
第2節 不当労働行為の審査	16
1 概要	16
2 審査の期間の目標及び実施状況	17
3 不当労働行為事件一覧表	17
4 取扱事件の概要	18
平成30年(不)第1号事件	18
5 再審査・行政訴訟事件	19
第3節 労働争議の調整	20
1 概要	20
2 調整事件一覧表	21
3 取扱事件の概要	22
平成29年(調)第2号事件(あっせん)	22
平成29年(調)第3号事件(あっせん)	23
平成30年(調)第1号事件(あっせん)	24
平成30年(調)第2号事件(あっせん)	25
平成30年(調)第3号事件(あっせん)	26
4 争議行為予告通知	27

第4節	個別的労使紛争に係るあっせん	28
1	概要	28
2	個別的労使紛争に係るあっせん事件一覧表	29
3	取扱事件の概要	31
	平成29年(個)第2号事件	31
	平成30年(個)第1号事件	32
	平成30年(個)第2号事件	33
	平成30年(個)第3号事件	34
	平成30年(個)第4号事件	35
	平成30年(個)第5号事件	36
	平成30年(個)第6号事件	37
	平成30年(個)第7号事件	38
第5節	労働組合の資格審査	39
第6節	地方公営企業等の非組合員の範囲の認定告示	39
第7節	労働委員会活性化に向けた取組	40
1	認知度を高めるための取組	40
2	委員・職員の資質の維持・向上を図るための取組	40
(資料)		
1	審査事件取扱状況	41
2	調整事件取扱状況	44
3	個別的労使紛争に係るあっせん事件取扱状況	47
第3章	歴代委員名簿	49

第1章 現況

1 委員名簿

第46期

(平成28年11月8日任命)

区分	氏名	現職	就任状況	備考
公益委員	大澤 一實	弁護士	平16.11.8 以降7期目	再
	岩谷 直子	弁護士	平26.11.8 以降2期目	再
	大矢 奈美	青森公立大学経営経済学部准教授	平26.11.8 以降2期目	再
	伊藤 佑輔	弁護士	平27.12.1 以降2期目	再
	細矢 浩志	弘前大学人文社会科学部教授	平28.11.8 以降1期目	新
労働者委員	山内 裕幸	全日通労働組合青森支部 執行委員長	平17.10.1 以降7期目	再
	小野 武司	三八五労働組合 中央執行委員長	平24.4.1 以降4期目	再
	谷川 浩二	弘前愛成会病院労働組合 執行委員長	平24.11.8 以降3期目	再
	内村 隆志	日本労働組合総連合会 青森県連合会会長	平26.7.1 以降3期目	再
	野坂 聡子	オールユニバースユニオン 副書記長	平28.11.8 以降1期目	新
使用者委員	北村 真夕美	株式会社青森経営研究所 代表取締役社長	平12.11.2 以降9期目	再
	寺下 一之	寺下建設株式会社 代表取締役社長	平20.11.8 以降5期目	再
	藤本 和夫	協同組合青森総合卸センター 専務理事	平23.9.1 以降4期目	再
	斎藤 悦朗	弘前航空電子株式会社 顧問	平24.11.8 以降3期目	再
	小笠原 裕	一般社団法人青森県経営者協会 専務理事	平25.7.1 以降3期目	再

第47期

(平成30年11月8日任命)

区分	氏名	現職	就任状況	備考
公益委員	大澤 一實	弁護士	平16.11.8 以降8期目	再
	岩谷 直子	弁護士	平26.11.8 以降3期目	再
	大矢 奈美	青森公立大学経営経済学部准教授	平26.11.8 以降3期目	再
	伊藤 佑輔	弁護士	平27.12.1 以降3期目	再
	細矢 浩志	弘前大学人文社会科学部教授	平28.11.8 以降2期目	再
労働者委員	山内 裕幸	全日通労働組合青森支部 特別執行委員	平17.10.1 以降8期目	再
	小野 武司	三八五労働組合 中央執行委員長	平24.4.1 以降5期目	再
	谷川 浩二	弘前愛成会病院労働組合 執行委員長	平24.11.8 以降4期目	再
	内村 隆志	日本労働組合総連合会 青森県連合会会長	平26.7.1 以降4期目	再
	野坂 聡子	オールユニバースユニオン 執行副委員長	平28.11.8 以降2期目	再
使用者委員	北村 真夕美	株式会社青森経営研究所 代表取締役社長	平12.11.2 以降10期目	再
	寺下 一之	寺下建設株式会社 代表取締役社長	平20.11.8 以降6期目	再
	藤本 和夫	協同組合青森総合卸センター 専務理事	平23.9.1 以降5期目	再
	斎藤 悦朗	弘前航空電子株式会社 顧問	平24.11.8 以降4期目	再
	小笠原 裕	一般社団法人青森県経営者協会 専務理事	平25.7.1 以降4期目	再

2 あっせん員候補者名簿

(平成30年12月31日現在)

職 業	氏 名
青森県労働委員会 公 益 委 員	大澤 一實
	岩谷 直子
	大矢 奈美
	伊藤 佑輔
	細矢 浩志
青森県労働委員会 労 働 者 委 員	山内 裕幸
	小野 武司
	谷川 浩二
	内村 隆志
	野坂 聡子
青森県労働委員会 使 用 者 委 員	北村 真夕美
	寺下 一之
	藤本 和夫
	斎藤 悦朗
	小笠原 裕
青森県労働委員会事務局	櫻庭 浩 (事務局長)

備考1 あっせん候補者は、原則として、労働委員会委員及び事務局職員（副参事以上）を委嘱している。

- 2 公示 平成30年 4月16日付け青森県報第4438号
平成30年 6月13日付け青森県報第4462号

3 事務局職員名簿

(平成30年12月31日現在)

職名	氏名	分掌事務	就任年月日
事務局長	櫻庭 浩		平30. 6. 1
総括主幹	角田 正人	審査・調整	平29. 4. 1
主幹	三上 昌宏	総務	平27. 4. 1
主幹	岩崎 聡	調整	平28. 4. 1
主幹	大川 麻紀	審査	平30. 4. 1

第2章 活動状況

第1節 会議

1 総会

回数	開催年月日	議 題
1394	30. 1. 9	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 平成29年(調)第3号事件のあっせん申請について</p> <p>(2) 平成29年(個)第2号事件のあっせん申請について</p> <p>(3) 労働相談会等の実績について</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 平成29年の審査の実施状況の公表について</p> <p>(2) 第73回全国労働委員会連絡協議会総会の議題について</p> <p>(3) 平成30年度北海道及び東北六県労働委員会連絡協議会総会に係る研修課題について</p> <p>(4) 平成30年における青森県労働委員会の認知度の向上対策について</p> <p>(5) 平成30年定例総会の開催予定の一部変更について</p> <p>(6) 平成30年度諸会議等への出席者について</p> <p>(7) 平成30年度委員・事務局職員研修の実施について</p>
1395	30. 2. 6	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 平成29年(調)第2号事件のあっせんについて</p> <p>(2) 平成29年(調)第3号事件のあっせんについて</p> <p>(3) 平成29年(個)第2号事件のあっせんについて</p> <p>(4) 平成30年(個)第1号事件のあっせん申請について</p> <p>(5) 平成30年(個)第2号事件のあっせん申請について</p> <p>(6) 労働相談会等の実績について</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 平成30年度北海道及び東北六県労働委員会連絡協議会総会に係る研修課題について</p> <p>(2) 平成30年労働相談会の実施計画について</p> <p>(3) 平成30年度諸会議等への出席者について</p> <p>(4) 平成30年度委員・事務局職員研修について</p>

回数	開催年月日	議 題
1396	30. 3. 6	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 平成29年(調)第3号事件のあっせんについて</p> <p>(2) 平成29年(個)第2号事件のあっせんの経過及び終結について</p> <p>(3) 平成30年(個)第1号事件のあっせんについて</p> <p>(4) 平成30年(個)第2号事件のあっせんの経過及び終結について</p> <p>(5) 争議行為予告通知について</p> <p>(6) 労働相談会等の実績について</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 日曜定例労働相談会に係る街頭宣伝活動について</p> <p>(2) 平成30年定例総会の一部変更について</p>
1397	30. 4. 3	<p>1 付議事項</p> <p>(1) あっせん員候補者の解任及び委嘱について</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 平成29年(調)第2号事件のあっせんの経過について</p> <p>(2) 平成29年(調)第3号事件のあっせんの経過及び終結について</p> <p>(3) 平成30年(調)第1号事件のあっせんの申請について</p> <p>(4) 平成30年(個)第1号事件のあっせんの終結について</p> <p>(5) 争議行為予告通知について</p> <p>(6) 労働相談会等の実績について</p> <p>3 その他</p> <p>(1) 平成30年度北海道及び東北六県労働委員会連絡協議会総会について</p> <p>(2) 日曜定例労働相談会に係る街頭宣伝活動について</p>
1398	30. 5. 8	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 平成29年(調)第2号事件のあっせんの経過について</p> <p>(2) 平成30年(調)第1号事件のあっせんの経過について</p> <p>(3) 労働相談会等の実績について</p>

回数	開催年月日	議 題
1399	30. 6. 5	1 付議事項 (1) あっせん員候補者の解任について 2 報告事項 (1) 平成29年(調)第2号事件のあっせんの経過及び終結について (2) 平成30年(調)第1号事件のあっせんの経過及び終結について (3) 平成30年(個)第3号事件のあっせん申請について (4) 争議行為予告通知について (5) 労働相談会等の実績について 3 その他 (1) 個別労働紛争処理制度周知月間で使用するチラシ及びポスターについて
1400	30. 7. 3	1 報告事項 (1) 平成30年(個)第3号事件のあっせんの経過について (2) 争議行為予告通知について (3) 労働相談会等の実績について 2 その他 (1) 平成30年度全国労働委員会会長連絡会議の報告について (2) 平成30年度北海道及び東北六県労働委員会労働者委員連絡協議会総会・研究会の報告について
1401	30. 8. 7	1 報告事項 (1) 第850回公益委員会議の概要について (2) 平成30年(不)第1号事件の不当労働行為救済申立てについて (3) 平成30年(個)第3号事件のあっせんの経過について (4) 平成30年(個)第4号事件のあっせん申請について (5) 労働相談会等の実績について 2 その他 (1) 平成30年度北海道及び東北六県労働委員会連絡協議会研修会の開催について (2) 平成30年定例総会及び労働相談会開催予定日の一部変更について

回数	開催年月日	議 題
1402	30. 9. 4	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 平成30年(不)第1号事件の経過について</p> <p>(2) 平成30年(個)第3号事件のあっせんの経過について</p> <p>(3) 平成30年(個)第4号事件のあっせんの経過について</p> <p>(4) 労働相談会等の実績について</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 10月の定例労働相談会について</p> <p>(2) 第73回全国労働委員会連絡協議会総会の開催について</p>
1403	30.10. 2	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 第851回公益委員会議の概要について</p> <p>(2) 平成30年(不)第1号事件の経過について</p> <p>(3) 平成30年(調)第2号事件のあっせん申請について</p> <p>(4) 平成30年(個)第3号事件のあっせんの経過について</p> <p>(5) 平成30年(個)第4号事件のあっせんの経過及び終結について</p> <p>(6) 平成30年(個)第5号事件のあっせん申請について</p> <p>(7) 争議行為予告通知について</p> <p>(8) 労働相談会等の実績について</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 平成30年度公労使委員合同研修について</p>
1404	30.11.13	<p>1 付議事項</p> <p>(1) 青森県労働委員会会長及び会長代理の選挙について</p>

回数	開催年月日	議 題
1405	30. 11. 13	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 平成30年(不)第1号事件の第1回調査について</p> <p>(2) 平成30年(調)第2号事件のあっせんの経過について</p> <p>(3) 平成30年(個)第3号事件のあっせんの終結について</p> <p>(4) 平成30年(個)第5号事件のあっせんの経過及び終結について</p> <p>(5) 争議行為予告通知について</p> <p>(6) 労働相談会等の実績について</p> <p>(7) 幹事委員の選任について</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 平成30年度北海道及び東北六県労働委員会連絡協議会研修会について</p> <p>(2) 第73回全国労働委員会連絡協議会総会の概要について</p> <p>(3) 平成31年定例総会の開催予定について</p> <p>(4) 平成31年定例労働相談会の実施計画(案)について</p>
1406	30. 12. 4	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 平成30年(調)第2号事件のあっせんの経過及び集結について</p> <p>(2) 平成30年(個)第6号事件のあっせん申請について</p> <p>(3) 争議行為予告通知について</p> <p>(4) 労働相談会等の実績について</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 今後の労働委員会の在り方に関する意見募集について</p> <p>(2) 平成31年定例総会の開催予定について</p> <p>(3) 平成31年定例労働相談会の実施計画(案)について</p>

2 公益委員会議

回数	開催年月日	議 題
850	30. 8. 7	1 平成30年(不)第1号事件の不当労働行為事件について
851	30. 10. 2	1 労働組合の資格審査について

3 連絡会議

(1) 第73回全国労働委員会連絡協議会総会

期 間 平成30年11月8日～9日
会 場 東京都港区「メルパルク TOKYO」
出席者 岩谷会長代理、大矢委員、山内委員、野坂委員、藤本委員、斎藤委員
櫻庭局長、岩崎主幹、大川主幹
講 演 演題：「平成期における審査事件の潮流」
講師：前中央労働委員会会長 諏訪 康雄 氏
議 題 ① 都道府県労働委員会が直面する諸課題の共有とその解決に向けた
検討組織の設置について
－申合せ又は決定－ (近畿ブロック公労使提案)
② 同一当事者間において救済申立てが複数回繰り返される場合の不
当労働行為事件への対応について
－経験と見解の交流－ (九州ブロック公労使提案)

(2) 平成30年度全国労働委員会会長連絡会議

期 日 平成30年6月15日
会 場 静岡県静岡市「ホテルセンチュリー静岡」
出席者 大澤会長、櫻庭局長、三上主幹
講 演 「職場のパワーハラスメント防止対策 ー検討会報告書の意義と課題」
講師：中央労働委員会地方調整委員、厚生労働省「職場のパワーハラ
スメント防止対策についての検討会」委員
成蹊大学法学部教授 原 昌登 氏
議 題 都道府県労働委員会が直面する制度的課題の共有とその解決方策につ
いて
① 各ブロック代表都道府県労委会長
(代表者発言：各ブロック代表都道府県労委会長)
② 議題懇談に関するコメント
(発言者：中央労働委員会会長 山川 隆一 氏)
③ 議題懇談を終えた感想
(発言者：静岡県労委会長 安間 龍彦 氏)

(3) 平成30年度全国労働委員会事務局長連絡会議

- 期 日 平成30年6月14日
会 場 静岡県静岡市「ホテルセンチュリー静岡」
出席者 櫻庭局長、三上主幹
議 題 ① 審査概況等について
② 調整事件等の概況について
③ 平成30年度公労使委員合同研修について
④ 平成30年度公労使委員個別紛争専門研修について
⑤ 議題懇談「増加するパワーハラスメント事件への対応について
～事件処理と未然防止の観点から」
⑥ 議題懇談「各労働委員会事務局が抱える課題の共有と解決に向けた検討組織の設置」

(4) 平成30年度全国労働委員会事務局審査主管課長会議

- 期 日 平成30年11月29日
会 場 東京都港区「労働委員会会館」
出席者 櫻庭局長、大川主幹
議 題 ① 今後の労働委員会の在り方検討について(事例発表及び意見交換)
② 情報公開開示請求への対応について(事例発表及び意見交換)
③ 和解認定後の中労委データベースの取扱いについて

(5) 平成30年度全国労働委員会事務局調整主管課長会議

- 期 日 平成30年11月30日
会 場 東京都港区「労働委員会会館」
出席者 櫻庭局長、岩崎主幹
議 題 ① 調整業務の運営について
② 都道府県労働委員会からの事例報告
ア 労働争議調整事件における特徴的な事例・工夫を要した事例について
イ 個別労働紛争事件における特徴的な事例・工夫を要した事例について
③ 都道府県労働委員会からの業務報告

(6) 平成30年度北海道及び東北六県労働委員会連絡協議会総会

- 期 日 平成30年6月7日～8日
- 会 場 青森県青森市「ラ・プラス青い森」
- 出席者 大澤会長、岩谷会長代理、大矢委員、伊藤委員、細矢委員、山内委員、小野委員、谷川委員、内村委員、野坂委員、北村委員、寺下委員、藤本委員、斎藤委員、小笠原委員、櫻庭局長、角田総括主幹、三上主幹、岩崎主幹、大川主幹
- 議 題 ① 第73回全国労働委員会連絡協議会総会へブロックとして提出する議題について (連絡協議会)
- ② 平成29年取扱事件とその傾向及び特異事件について (各道県労働委員会)
- ③ 平成29年度決算について (連絡協議会)
- ④ 平成30年度予算(案)について (連絡協議会)
- ⑤ ブロック会長及び副会長の選任について (連絡協議会)
- ⑥ 次期全国労働委員会連絡協議会運営委員の選出について (連絡協議会)
- ⑦ 平成31年度総会及び研修会の開催時期及び開催地について (連絡協議会)
- 研修課題 ① 不当労働行為に係る救済命令の対象等について
- ② 調整(あっせん)事件における当事者適格等について

(7) 平成30年度北海道及び東北六県労働委員会連絡協議会研修会

- 期 間 平成30年10月25日～26日
- 会 場 北海道札幌市「札幌ガーデンパレス」
- 出席者 大澤会長、細矢委員、山内委員、谷川委員、北村委員、寺下委員、櫻庭局長、岩崎主幹、大川主幹
- 講 演 演題：「労使紛争における和解について」
講師：弁護士、前学習院大学教授 草野 芳郎 氏
- 研修課題 ① 団体交渉拒否を理由とする不当労働行為の成否と救済命令のあり方について
- ② 個別あっせんにおけるパワーハラスメント事案の対応について

(8) 平成30年度北海道・東北六県労働委員会事務局連絡会審査・調整課長連絡会議

- 期 間 平成30年8月30日～31日
- 会 場 岩手県盛岡市「エスポワールいわて」
- 出席者 角田総括主幹、大川主幹
- 議 題 ① 全労委会長会議等において議論が進められている「都道府県労働委員会が直面する制度的課題の共有とその解決方策について」に関する意見交換 (宮城県提案)
- ② 労働委員会の運営上の諸課題とその検討に向けた準備について (中労委提案)
- 研 修 (研修議題)
- ① 不当労働行為の審査における時機に遅れた攻撃防御方法の却下について (岩手県労働委員会)
- ② 審問実施後の和解について (北海道労働委員会)
- ③ 事件終結後の和解事項等の履行状況等の確認について (宮城県労働委員会)
- ④ 労働争議調整事件への対応について (岩手県労働委員会)
- ⑤ 事情聴取が困難な個別あっせん利用者(労働者)への対応について (北海道労働委員会)
- ⑥ パワハラ・セクハラに係る個別あっせんの対応について (青森県労働委員会)
- ⑦ 個別労働関係紛争あっせん申請において、相手側に連絡が取れない場合等の対応について (秋田県労働委員会)
- ⑧ あっせん員(労使各側)による控え室での事情聴取時の事務局職員と同席について (福島県労働委員会)
- ⑨ 労働相談の対応状況について (青森県労働委員会)
- ⑩ 外国人の労働相談等への対応について (山形県労働委員会)
- ⑪ 労働相談と周知広報活動の充実について (山形県労働委員会)
- ⑫ 労働委員会の周知に係る広報の実施状況について (福島県労働委員会)
- ⑬ マスコミ、議会等からの事件に関する問い合わせについてどのように対応しているか (秋田県労働委員会)
- ⑭ 労働局との役割分担又は連携について (宮城県労働委員会)

4 労働相談会

労働関係に関して個々の労働者と事業主との間の紛争の迅速かつ適正な解決のため、個別労働関係紛争処理制度が設けられているが、その一層の利用拡大と周知を図るため、平成21年10月から委員による労働相談会を開催している。その後、労働相談会は平成27年1月から原則として毎月第1火曜日に定例的に開催し、平成30年4月からは第1火曜日に加え、原則として第3日曜日にも開催している（月2回）。

平成30年は次のとおり実施した。

日時	場所	相談員
1月9日(火) 13:30~15:30	労働委員会 (青森市)	大澤会長、山内委員
2月6日(火) 13:30~15:30	労働委員会 (青森市)	細矢委員、小笠原委員
3月6日(火) 13:30~15:30	労働委員会 (青森市)	岩谷会長代理、内村委員 野坂委員、斎藤委員
4月3日(火) 13:30~15:30	労働委員会 (青森市)	小野委員、寺下委員
4月15日(日) 10:30~12:30	労働委員会 (青森市)	岩谷会長代理、斎藤委員
5月8日(火) 13:30~15:30	労働委員会 (青森市)	伊藤委員、谷川委員
5月20日(日) 10:30~12:30	労働委員会 (青森市)	野坂委員、藤本委員
6月5日(火) 13:30~15:30	労働委員会 (青森市)	細矢委員、北村委員
6月17日(日) 10:30~12:30	労働委員会 (青森市)	細矢委員、内村委員
7月3日(火) 13:30~15:30	労働委員会 (青森市)	山内委員、寺下委員
7月22日(日) 10:30~12:30	労働委員会 (青森市)	伊藤委員、小笠原委員
8月7日(火) 13:30~15:30	労働委員会 (青森市)	岩谷会長代理、小野委員
9月4日(火) 13:30~15:30	労働委員会 (青森市)	野坂委員、藤本委員
9月9日(日) 10:30~12:30	労働委員会 (青森市)	大矢委員、谷川委員
10月2日(火) 13:30~15:30	労働委員会 (青森市)	大矢委員、斎藤委員

日 時	場 所	相 談 員
10月14日（日） 10:30～12:30	弘前文化センター (弘前市)	谷川委員、斎藤委員
10月21日（日） 10:30～12:30	ユートリー (八戸市)	大澤会長、寺下委員
10月28日（日） 10:30～12:30	労働委員会 (青森市)	細矢委員、山内委員
11月13日（火） 13:30～15:30	労働委員会 (青森市)	谷川委員、藤本委員
11月18日（日） 10:30～12:30	労働委員会 (青森市)	伊藤委員、小笠原委員
12月4日（火） 13:30～15:30	労働委員会 (青森市)	伊藤委員、内村委員
12月16日（日） 10:30～12:30	労働委員会 (青森市)	野坂委員、北村委員

5 委員研修

(1) 公労使委員合同研修

期 間 平成30年9月6日～7日

会 場 東京都中野区「中野サンプラザ」外

出席者 伊藤委員、北村委員、寺下委員、斎藤委員、小笠原委員

研修内容

全体研修（9月6日）及び各側に分かれての独自研修（9月7日）

(2) 委員・職員研修

回数	開催年月日	講 師 等
1	30. 2. 6	使用者委員による研修 (青森労働局労働基準部 部長 田之上 英治 氏)
2	30. 3. 6	特別研修 (北海道大学名誉教授 法学博士 道幸 哲也 氏)
3	30. 5. 8	ブロック総会に係る課題検討
4	30. 9. 4	公益委員による研修 (弁護士 三上 雅通 氏)
5	30.10. 2	ブロック研修会に係る課題検討
6	30.12. 4	労働者委員による研修 (連合青森 アドバイザー 前田 和夫 氏)

第2節 不当労働行為の審査

1 概要

(1) 取扱件数

平成30年の取扱件数は、次表のとおりである。

前年からの 繰越件数	新規申立 件数	取扱件数 合計	処理件数	次年への 繰越件数
0	1	1	0	1

(2) 申立内容別件数

平成30年の取扱事件のうち、労働組合法第7条各号別の件数は、次表のとおりである。

7条各号別内訳								計
1	2	3	1・2	1・3	2・3	1・2・3	その他	
			1					1

2 審査の期間の目標及び実施状況

(1) 審査の期間の目標

平成17年3月1日に開催した第813回公益委員会議において、審査の期間の目標を1年6月に定めた。

(2) 平成30年の実施状況

平成30年の不当労働行為事件は、新規申立てが1件あり、翌年に繰り越し係属中である。

① 審査の期間の日数等

事件番号	申立日 ----- 終結日	審査期間 の 日 数	調査 回数	審問 回数	証人数	終結区分
平成30年 (不)第1号	30. 7. 27 -----		2			係属中
計1件			2			

② 終結区分毎の平均処理日数

	取下・和解				命令・決定					合計 ／ 総平均
	取下	関与 和解	無関与 和解	小計 ／ 平均	全部 救済	一部 救済	棄却	却下	小計 ／ 平均	
処 理 件 数										
平均処理日数										

3 不当労働行為事件一覧表

事件 番号	申立 年月日	業種	請求する救済内容	審査 委員	参与委員		終結年月日 (所要日数)	終結 区分
					労	使		
30(不)1	30. 7. 27	サー ビス	1 賞与相当額の支給 2 誠実な団体交渉応諾 3 ポストノーティス	大澤 (伊藤) 細矢	小野 野坂	北村 寺下	係属中	

4 取扱事件の概要

平成30年（不）第1号事件

申立人	X1組合、X2			
被申立人	Y			
申立年月日	平成30年 7月27日	事件の態様	第7条1号2号	
請求する救済の内容	1 賞与相当額の支給 2 誠実な団体交渉応諾 3 ポストノーティス			
審査委員	大澤（伊藤）・細矢		審問等回数	2回
			終結年月日	
参与委員	労	小野・野坂	所要日数	
	使	北村・寺下	終結区分	係属中

【事件の概要】

X2は、Yにおいて部長職に就いており、上司らとともにYの理事長の解任議案の理事会提出に関わったが、平成29年5月1日に当該議案が否決された。

その後、X2は、当該理事長がX2を降格させようとしている旨を聞き、平成29年7月12日にX1組合に加入し、同月28日にX1組合が団体交渉を申し入れたが、同年8月1日付けで部長から一般職員に降格となった。

その後、X1組合とYが団体交渉を実施し、書面のやり取りが行われたものの、当該降格処分の理由の一部に係る具体的な事実等について、Yから回答がなく、打ち切られた。

また、YがX2の平成29年度冬期賞与を不支給としたため、X1組合はYに対して団体交渉の申し入れを行ったが、これまでと同様のくり返しとなるとして、団体交渉に応じなかった。

これに対して、X1組合とX2は、平成29年度冬期賞与の不支給が当該降格処分の撤回を求めて団体交渉を実施したための不利益取扱いであり、当該降格処分に係る具体的な理由を示さずに団体交渉を打ち切ったこと及び当該賞与不支給に係る団体交渉を拒否したことが誠実団体交渉義務違反・正当な理由のない団体交渉拒否であることから、労働組合法第7条第1号及び第2号に該当する不当労働行為であるとして救済を求めた。

【審査の経過】

申立てを受けて審査を開始し、争点整理等のために調査を2回行ったところで翌年へ繰り越し、係属中である。

第1回調査	平成30年10月31日	争点整理
第2回調査	平成30年12月19日	〃

5 再審査・行政訴訟事件

(1) 再審査事件

なし

(2) 行政訴訟事件

なし

第3節 労働争議の調整

1 概要

(1) 取扱件数

平成30年の取扱件数は、前年からの繰り越し2件、新規申請3件（組合側3件）であった。

(2) 取扱事件の傾向

取扱事件5件のうち、前年から繰り越した2件は、誠実に団体交渉に応じることを求める事件1件と、組合事務所貸与の「不利益取扱い」の是正を求める事件1件で、2件とも解決により終結した。新規申請事件3件のうち、団体交渉の開催を求める事件1件と組合事務所貸与の「不利益取扱い」の是正を求める事件1件は取下げにより終結し、他の1件は翌年へ繰り越した。

(3) 業種別申請件数（新規件数）

製 造	運 輸	情 報 通 信	卸 ・ 小 売	金 融 ・ 保 険	医 療 ・ 福 祉	学 校 教 育	サ ー ビ ス	そ の 他	計
	2				1				3

(4) 主なあっせん項目別件数（新規件数）

解雇退職	配 転	賃 金	臨 時 給	その他の 賃金関係	そ の 他	計
					3	3

(5) 終結区分

解 決	打 切	取 下	次 年 へ 繰 越	計
2		2	1	5

2 調整事件一覧表

事件 番号 【申請者】	開始 年月日	業種	調整事項	調整員				終結年月日 (所要日数)	終結 区分
				公	労	使	事		
29(調)2 【組合】	29.11.7	製造	誠実に団体交渉に応じる こと	大矢	小野 野坂	斎藤 小笠原	白坂	30.5.25 (200日)	解決
29(調)3 【組合】	30.1.4	運輸	組合事務所貸与の「不利 益取扱い」の是正	大澤	山内	北村	白坂	30.3.26 (82日)	解決
30(調)1 【組合】	30.3.27	医療	団体交渉の開催	大澤 細矢	山内	藤本	櫻庭	30.5.23 (58日)	取下 げ
30(調)2 【組合】	30.9.25	運輸	組合事務所貸与の「不利 益取扱い」の是正	大澤	山内	北村	櫻庭	30.11.30 (67日)	取下 げ
30(調)3 【組合】	翌年 繰越	運輸	組合員への口頭注意処分 の撤回	大澤	山内	北村	櫻庭	翌年 繰越	

3 取扱事件の概要

平成29年（調）第2号事件（あっせん）

申請者	X組合			(組合員数)	33人
被申請者	Y			(事業の種類)	製造
				(従業員数)	229人
申請年月日	平成29年11月6日	開始年月日	平成29年11月7日		
調整事項	誠実に団体交渉に応じること				
あっせん員	公	大矢	調整回数	3回	
	労	小野、野坂	終結年月日	平成30年 5月25日	
	使	斎藤、小笠原	所要日数	200日	
	事	白坂	終結区分	解決	

【申請に至るまでの経緯】

平成28年7月にX組合が結成され、同月Y側に団体交渉を申入れたが、Y側は諸般の事情を理由に団体交渉を延期し、同年12月1日に第1回団体交渉が行われた。団体交渉でX組合は「一時金の増額拒否」と「55歳以上の賃金カット」について明確な根拠を含めて説明を求めたが、Y側は、X組合の求めるような説明を行わず、その後の団体交渉においても具体的な資料を提示せず、業績悪化などの一般的な説明に終始したことから、あっせん申請に至った。

【調整経過】

平成30年3月7日に第1回あっせん、同年4月16日に第2回あっせんが行われ、Xは、Yの事務折衝担当者として、ある程度の権限のある者が本県事業所に常駐すべきであり、資料を提示して説明し、一般論を繰り返すべきではない等と主張し、一方、Yは、Yの取締役（県外）が交渉窓口となるが、Xが具体的かつ明確な協議事項で団体交渉を申し入れるべきである等と主張する等、双方歩み寄りが見られなかった。

平成30年5月16日に行われた第3回あっせんでは、あっせん員から、両当事者に対して説諭した上で、①双方で団体交渉の申入れ窓口となる担当者を設定し、当該申入れがあったことを確認することや②行き違いが生じないよう団体交渉項目の趣旨について確認することを内容とするあっせん案を提示したところ、両当事者が受諾する意向を示し、同月25日までに双方から受諾する旨の回答書が提出されたことから、本事件は解決により終結した。

平成29年（調）第3号事件（あっせん）

申請者	X組合			(組合員数)	人(非公開)
被申請者	Y			(事業の種類)	運輸
				(従業員数)	217人
申請年月日	平成29年12月28日		開始年月日	平成30年1月4日	
調整事項	組合事務所貸与の「不利益取扱い」の是正				
あっせん員	公	大澤		調整回数	2回
	労	山内		終結年月日	平成30年 3月26日
	使	北村		所要日数	82日
	事	白坂		終結区分	解決

【申請に至るまでの経緯】

平成27年6月にX組合が結成され、同月Y側に組合事務所の貸与を求める団体交渉を申入れ、同年7月に第1回団体交渉が行われたが、Y側は、「空き部屋がない」として現状では貸与に応じられない旨回答した。その後、平成28年以降もX組合は、組合事務所の貸与を求める団体交渉を行ったが、Y側は、場所的な余裕がないため、直ちに貸与には応じられない旨回答した。X組合は、Yが別の労働組合には以前から組合事務所を貸与しているのにX組合に貸与しないのは不利益取扱いであるとしてあっせん申請に至った。

【調整経過】

平成30年3月12日に第1回あっせんを行い、あっせん員で協議し、あっせん終了後にY庁舎等の現地確認を行った。同月19日に第2回あっせんを行い、あっせん員から現地確認の結果、庁舎内にX組合の事務所の設置スペースを確保することは可能と思われることを被申請者に伝え、それに基づき、7月末を目途に、X組合に対する事務所用の場所を貸与するよう努めるものとする等のあっせん案を提示したところ、同月23日までに双方から受諾する旨の回答書が提出されたことから、本事件は解決により終結した。

平成30年（調）第1号事件（あっせん）

申請者	X組合			(組合員数)	105人
被申請者	Y			(事業の種類)	医療
				(従業員数)	172人
申請年月日	平成30年3月22日		開始年月日	平成30年3月27日	
調整事項	団体交渉の開催				
あっせん員	公	大澤、細矢		調整回数	0回
	労	山内		終結年月日	平成30年5月23日
	使	藤本		所要日数	58日
	事	櫻庭		終結区分	取下げ

【申請に至るまでの経緯】

平成29年11月7日、X組合はYに看護師等に対するストレス除去・軽減措置等について団体交渉の開催を申し入れたが、Yは申し入れた協議事項について「議題整理をしてから応ずる」旨の回答を繰り返すだけで、団体交渉に応じなかったことから、あっせん申請に至った。

【調整経過】

平成30年4月の人事異動でYの担当者が変更となり、新たな担当者間で協議を行ったところ、申請者側の申し入れた事項で団体交渉が開催されることになったため、同年5月21日付けで取下書が提出され、同月23日付けで受理し、本事件は終結した。

平成30年（調）第2号事件（あっせん）

申請者	X組合			(組合員数)	人(非公開)
被申請者	Y			(事業の種類)	運輸
				(従業員数)	217人
申請年月日	平成30年	9月21日	開始年月日	平成30年	9月25日
調整事項	組合事務所貸与の「不利益取扱い」の是正				
あっせん員	公	大澤	調整回数	0回	
	労	山内	終結年月日	平成30年11月30日	
	使	北村	所要日数	67日	
	事	櫻庭	終結区分	取下げ	

【申請に至るまでの経緯】

H29年（調）第3号事件のあっせんにおいて、Yが平成30年7月末を目途に、X組合に対する事務所用の場所を貸与するよう努めるものとする旨のあっせん案をX組合とYの双方が受諾していたが、同年9月においてもYから当該場所が貸与されないことから、Xはあっせん申請に至った。

【調整経過】

平成30年10月17日に事務局調査を行ったところ、YはX組合の事務所の設置場所とする保健室の新たな設置場所や予算の確保等で、X組合の事務所の場所の貸与が遅れていたが、11月末までに当該貸与の準備ができるとのことであった。

また、Xは、Yから実際にX組合の事務所用の場所が貸与されれば、あっせん申請を取り下げる意向を示していたところ、同年12月1日からX組合に対し事務所の場所が貸与されることになったことから、同年11月30日付けで取下書が提出され、同日付けで受理し、本事件は終結した。

平成30年（調）第3号事件（あっせん）

申請者	X組合			(組合員数)	人(非公開)
被申請者	Y			(事業の種類)	運輸
				(従業員数)	217人
申請年月日	平成30年12月28日		開始年月日	翌年へ繰り越し	
調整事項	口頭注意処分の是正・撤回				
あっせん員	公	大澤	調整回数	0回	
	労	山内	終結年月日		
	使	北村	所要日数		
	事	櫻庭	終結区分	翌年へ繰り越し	

【申請に至るまでの経緯】

平成28年11月、Yは、X組合の当時執行委員長であったAに対して業務外の問題行為があったとして、口頭注意を行ったが、X組合は、これをA個人の民事上の問題であるにもかかわらずYの処分規定に基づかない処分を行ったものであり、X組合潰しを狙った行為であるとしてあっせん申請に至った。

【調整経過】

あっせん申請が年末であったことから、事件の開始は、翌年へ繰り越されることになった。(翌年へ繰り越し)

4 争議行為予告通知

労働関係調整法第37条の規定に基づく公益事業の争議行為予告通知の状況（本県分関係）は下記のとおりである。

業種別では、運輸事業が70.4%、次いで医療、公衆衛生事業が15.9%を占めている。

また、争議項目別では、賃金関係（賃金及び一時金）が全体の38.6%を占めている。

(1) 業種別状況

運 輸	郵 便 電信・電話	水道、電気 ガ ス	医 療 公衆衛生	計
31	5	1	7	44

(2) 主な争議項目別状況

賃 金	一 時 金	労働協約	合 理 化	そ の 他	計
17	4	1	2	20	44

第4節 個別的労使紛争に係るあっせん

1 概要

(1) 取扱件数

平成30年の取扱件数は、前年からの繰り越し1件、新規申請7件（労働者側7件）であった。

(2) 取扱事件の傾向

取扱事件8件のうち、前年から繰り越した社会保険関係の事件1件が解決により終結した。

新規取扱事件7件のうち、配置転換の撤回を求める事件1件と、パワハラやいじめ等による慰謝料等の支払等を求める事件2件のうち1件が解決により終結し、もう1件は、被申請者があっせんに応じないため打ち切りとなり、降格人事の撤回等を求める事件1件と退職理由の変更を求める事件1件が取下げにより終結し、他の2件は翌年へ繰り越した。

(3) 業種別申請件数（新規件数）

製 造	運 輸	情 報 通 信	卸 ・ 小 売	金 融 ・ 保 険	医 療 ・ 福 祉	学 校 教 育	サ ー ビ ス	そ の 他	計
			2				4	1	7

(4) 主なあっせん事項別件数（新規件数）

解雇退職	配 転	賃 金	臨 時 給	その他の 賃金関係	そ の 他	計
2	1				4	7

(5) 終結区分

解 決	打 切	取 下	次 年 へ 繰 越	計
3	1	2	2	8

2 個別的労使紛争に係るあっせん事件一覧表

事件 番号 【申請者】	開始 年月日	業種	調整事項	調整員				終結年月日 (所要日数)	終結 区分
				公	労	使	事		
29(個)2 【労働者】	H30.1.4	医療	1 社会・労働保険料の労働者負担分の負担 2 扶養手当・住居手当の支給 3 次の就職先が見つかるまでの給与相当額（2か月分程度）の支給	大澤	小野 野坂	北村 寺下	天内	30.2.23 (51日)	解決
30(個)1 【労働者】	H30.1.16	サービス	1 降格人事の撤回 2 冬期一時金不支給の撤回	岩谷	谷川	藤本	天内	30.3.23 (67日)	取下 げ
30(個)2 【労働者】	H30.1.25	サービス	1 パワハラ、モラルハラスメントで退職に至ったための慰謝料の請求	大矢	内村	斎藤	天内	30.3.5 (40日)	打切 り
30(個)3 【労働者】	H30.5.28	サービス	1 退職理由の変更	岩谷 (伊藤)	谷川	斎藤	櫻庭	30.10.9 (135日)	取下 げ
30(個)4 【労働者】	H30.7.31	卸・ 小売	1 いじめ・暴言による精神的苦痛による慰謝料の請求 2 パワハラ防止のための職場環境改善	大矢	内村	小笠原	櫻庭	30.9.27 (59日)	解決
30(個)5 【労働者】	H30.9.14	ガス	1 配置転換の撤回	大澤	小野	寺下	櫻庭	30.11.7 (55日)	解決

事件 番号 【申請者】	開始 年月日	業種	調整事項	調整員				終結年月日 (所要日数)	終結 区分
				公	労	使	事		
30(個)6 【労働者】	H30.11.19	卸・ 小売	1 労働条件不利益変更合 意の無効 2 未払い賃金の支払 3 解雇意思の有無の確認 及び解雇意思があった場 合の慰謝料の請求並びに 労働基準監督署への相談 内容の開示	伊藤 細矢	谷川 (山内)	斎藤	櫻庭	翌年繰越	
30(個)7 【労働者】	H30.12.7	サー ビス	1 解雇による損害賠償又 は慰謝料の請求	大澤	野坂	小笠原	櫻庭	翌年繰越	

3 取扱事件の概要

平成29年（個）第2号事件

申請者	X			
被申請者	Y	(事業の種類)		医療
		(従業員数)		200人
申請年月日	平成29年12月26日	開始年月日	平成30年1月4日	
あっせん事項	1 社会・労働保険料の労働者負担分の負担 2 扶養手当・住居手当の支給 3 給与相当額（2ヶ月分程度）の支給			
あっせん員	公	大澤	あっせん回数	1回
	労	小野、野坂	終結年月日	平成30年2月23日
	使	北村、寺下	所要日数	51日
	事	天内	終結区分	解決

【申請に至るまでの経緯】

Xは、平成29年7月にYの職員からパワーハラスメント的な言動等を受け、体調が悪化し、出勤できず、有給休暇もなくなり、欠勤せざるをえなくなった。その後、Yからは退職を迫られ、社会・労働保険の労働者負担分相当の負担を求められたため、あっせん申請に至った。

【あっせん経過】

Yは、Xが普段からミスが多く、上司から注意されていたが、パワーハラスメント的な言動等はないとXの主張を否定したものの、できるだけ早期に解決したい意向を示した。それを受け、あっせん員が協議し、平成30年2月23日に開催された第1回あっせんにおいて、①XがYの上司から職場で冷遇されたと判断したことを理由としてYを退職し、②Yが解決金を支払う旨のあっせん案を提示したところ、当事者双方が受諾したことから、同日付けで本事件は解決により終結した。

平成30年（個）第1号事件

申請者	X			
被申請者	Y	(事業の種類)	サービス	
		(従業員数)	25人	
申請年月日	平成30年 1月15日	開始年月日	平成30年1月16日	
あっせん事項	1 降格人事の撤回 2 冬期一時金不支給の撤回			
あっせん員	公	岩谷	あっせん回数	0回
	労	谷川	終結年月日	平成30年3月23日
	使	藤本	所要日数	67日
	事	天内	終結区分	取下げ

【申請に至るまでの経緯】

Xは、Yにおいて部長職に就いていたが、上司とともにYの理事長の解任議案の理事会の提出に関わり、平成29年5月1日に当該議案が否決された後、同年8月1日付けで部長から一般職員に降格となり、平成29年度冬期一時金が支給されなかったことから、降格人事の撤回と冬期一時金の不支給の撤回を求め、あっせん申請に至った。

【あっせん経過】

平成30年2月27日付けでYから大量の資料とともに、Xの主張を認めず、あっせん事項に応じられない旨の書面が提出されたため、あっせん員が協議し、Xに対し、あっせん員がYを説得しても、あっせんに応じる見込みがないと説明したところ、同年3月23日付けでXより取下書が提出され、同日付けで受理し、本事件は終結した。

平成30年（個）第2号事件

申請者	X			
被申請者	Y	(事業の種類)	サービス	
		(従業員数)	130人	
申請年月日	平成30年 1月24日	開始年月日	平成30年 1月25日	
あっせん事 項	パワハラ、モラルハラスメントで退職に至ったための慰謝料の請求			
あっせん員	公	大矢	あっせん回数	0回
	労	内村	終結年月日	平成30年3月 5日
	使	斎藤	所要日数	40日
	事	天内	終結区分	打切り

【申請に至るまでの経緯】

Xは、平成29年5月16日にYに入社し、施設管理業務を行っていたが、上司の暴言、無視等があり、ストレス等で体調不良となり、同年11月に退職することとなった。

パワハラに対する慰謝料の請求を求め、同年12月に労働局にあっせんで申請したが、Yがあっせんで拒否し打切りとなったため、当労働委員会にあっせんで申請した。

【あっせん経過】

平成30年2月13日に事務局調査を行ったところ、Yがあっせんで拒否する意向を示したため、同月28日に斎藤あっせん員がYに対してあっせん参加の説得を行ったが、Yの意向は変わらなかったため、本事件は打切りで終結した。

平成30年（個）第3号事件

申請者	X			
被申請者	Y	(事業の種類)	サービス	
		(従業員数)	418人	
申請年月日	平成30年 5月28日	開始年月日	平成30年5月28日	
あっせん事項	退職理由の変更			
あっせん員	公	岩谷 (伊藤)	あっせん回数	0回
	労	谷川	終結年月日	平成30年10月 9日
	使	斎藤	所要日数	135日
	事	櫻庭	終結区分	取下げ

【申請に至るまでの経緯】

Xは、Yに正規職員として勤務していたが、同僚へのハラスメント行為が原因で平成30年5月9日付けで懲戒解雇となったが、就業規則に諭旨解雇が定められていないことを理由とした懲戒解雇に納得できず、他の問題行動もなかったとして、退職理由を自主退職へ変更することを希望し、あっせん申請に至った。

【あっせん経過】

平成30年6月20日に事務局調査を行い、第1回あっせんの日程調整中にXが県外に転居した後、同年10月1日付けでXから取下書が提出され、同月9日付けで受理し、本事件は終結した。

平成30年（個）第4号事件

申請者	X			
被申請者	Y	(事業の種類)	卸・小売	
		(従業員数)	33人	
申請年月日	平成30年 7月30日	開始年月日	平成30年 7月31日	
あっせん事項	1 いじめ、暴言による精神的苦痛による慰謝料の請求 2 パワハラ防止のための職場環境改善			
あっせん員	公	大矢	あっせん回数	1回
	労	内村	終結年月日	平成30年 9月27日
	使	小笠原	所要日数	59日
	事	櫻庭	終結区分	解決

【申請に至るまでの経緯】

Xは、Y青森支店副支店長から、皆の前で大声で怒鳴られたり、他の社員にXに仕事の話を受けないように言い、社内で孤立させるようとしたりするなどにより精神的苦痛を受けたとして、平成30年8月末で退職することとなったが、職場環境が改善されることを希望し、あっせん申請に至った。

【あっせん経過】

平成30年9月25日に第1回あっせんが開催され、Yは、Xの問題行動を注意したこと等はあったものの、いじめ等はしていないと主張したが、職場の環境改善を行うことを否定しなかった。

このため、あっせん員で協議し、Yが職場環境改善措置を検討し、速やかにこれを実施することなどを内容としたあっせん案を提示したところ、当事者双方が受諾したことから、本事件は解決により終結した。

平成30年（個）第5号事件

申請者	X			
被申請者	Y	(事業の種類)		ガス業
		(従業員数)		250人
申請年月日	平成30年 9月14日	開始年月日	平成30年 9月14日	
あっせん事 項	配置転換の撤回			
あっせん員	公	大澤	あっせん回数	1回
	労	小野	終結年月日	平成30年11月 7日
	使	寺下	所要日数	55日
	事	櫻庭	終結区分	解決

【申請に至るまでの経緯】

Xは、平成30年8月24日付けでYにより、県内事業所から本社管理部（仙台市）への異動の内示を受けたが、家庭の事情等があるため辞退したところ、県内事業所において事務業務から配送業務への配置転換（業種変更）となった。Xは女性であり、重度の難聴や家族の介護があるため、重い荷物の運搬等のある配送業務への配置転換を白紙にし、元の業務へ戻してほしいとしてあっせん申請に至った。

【あっせん経過】

平成30年11月5日に第1回あっせんが開催された。Yは、変更後の業務は重労働ではなく、女性にも可能な業務であることから業務変更はできないと主張し、歩み寄りが見込めず、あっせん打ち切りを視野に双方と個別に協議を重ねたところ、Yから、Xの退職を前提として、退職金等を支払うことで解決させたい旨の提案があり、Xが了承する意向を示したため、①YがXを勧奨退職させ、②退職金等を支払うことなどを内容としたあっせん案を提示したところ、当事者双方が受諾し、同月7日までに双方から受諾書が提出されたことから、本事件は解決により終結した。

平成30年（個）第6号事件

申請者	X			
被申請者	Y	(事業の種類)		卸・小売
		(従業員数)		6人
申請年月日	平成30年11月16日	開始年月日	平成30年11月19日	
あっせん事項	1 労働条件不利益変更合意の無効 2 未払賃金の支払 3 解雇意思の有無の確認及び解雇意思があった場合の慰謝料の請求並びに労働基準監督署への相談内容の開示			
あっせん員	公	伊藤、細矢	あっせん回数	0回
	労	谷川（山内）	終結年月日	
	使	斎藤	所要日数	
	事	櫻庭	終結区分	翌年へ繰り越し

【申請に至るまでの経緯】

Xは、平成30年1月から、Yに正社員として勤務していたが、Yからのサービス残業の強要ともとれる発言などがあったため、同年5月にYに未払残業代を要求したところ、同年7月、Yは労働基準監督署に相談した上で、赤字を理由にXに退職勧奨を行った。

Xが退職勧奨を拒否し、Y従業員の勤務時間を減らすこと等をYに提案したところ、Yは、Xの労働時間を減らすことを提案したため、Xは経営状況をきちんと説明することを条件に労働時間を減らすことに合意した。

その後、Xは、Yの貸借対照表などを閲覧したところ、従業員を整理しなければならない程の赤字ではなく、Yが、あらかじめ、Xに対して、そのことをきちんと説明していれば、労働条件（勤務時間）の変更合意しなかった等として、労働条件の不利益変更合意の撤回と変更前の労働時間による賃金の差額や未払残業代の支払、労働基準監督署への相談当時におけるXの解雇意思の有無の確認等や当該相談内容の開示を求め、あっせん申請に至った。

【あっせん経過】

平成30年12月16日に事務局調査を行い、第1回あっせんの開催は翌年へ繰り越されることになった。（翌年へ繰り越し）

平成30年（個）第7号事件

申請者	X			
被申請者	Y	(事業の種類)	サービス	
		(従業員数)	1人	
申請年月日	平成30年12月6日	開始年月日	平成30年12月7日	
あっせん事項	解雇による損害賠償又は慰謝料の請求			
あっせん員	公	大澤	あっせん回数	0回
	労	野坂	終結年月日	
	使	小笠原	所要日数	
	事	櫻庭	終結区分	翌年へ繰り越し

【申請に至るまでの経緯】

Xは、平成25年、Yが開設した建築士事務所で営業担当として一緒に仕事をしてほしいと言われ、平成26年4月にYに入社した。

平成30年11月29日に、Yから、金銭的な理由により、来月末で辞めてほしい旨を言われたが、解雇理由の根拠の説明がなく、話し合いの場も設けることができなかったため、あっせん申請に至った。

【あっせん経過】

平成30年12月20日に事務局調査を行い、第1回あっせんの開催は翌年へ繰り越されることになった。(翌年へ繰り越し)

第5節 労働組合の資格審査

平成30年の取扱件数は、次表のとおりである。

申請理由	件数	取扱件数		処理件数			
		前年からの繰越	新規	計	認定	取下	翌年の繰越
不当労働行為			1	1			1
委員推薦			11	11	11		
法人登記							
計			12	12	11		

第6節 地方公営企業等の非組合員の範囲の認定告示

平成30年における地方公営企業等の労働関係に関する法律（昭和27年法律第289号）第5条第2項の規定による告示の取扱いはなかった。

第7節 労働委員会活性化に向けた取組

少子高齢化の進行や若年層を中心とした非正規労働者の増加など労働を取り巻く環境は大きく変化しており、労働委員会がその機能を発揮し、使命を十分に果たせるよう、労働委員会活性化のための検討委員会が作成した第1次～第3次報告書等を受けて、当委員会が実施した活性化に向けた取組は、次のとおりである。

1 平成30年の認知度を高めるための取組

- ① ホームページによるPRの充実
- ② 県の広報媒体によるPR（地元3紙、ラジオ、インターネット配信、コンビニ等でのチラシ設置）
- ③ 委員による労働相談会の開催
原則毎月第1火曜日に開催していたものを、4月以降は、原則第3日曜日も開催しているほか、10月の周知月間には日曜日に県内3市（青森市・弘前市・八戸市）において合計4回開催した。
- ④ 街頭宣伝活動実施
次のとおり、委員及び事務局職員が街頭でチラシ入りのポケットティッシュを配布し、PRを行った。
・平成30年 4月3日 さくら野百貨店青森本店前及びアウガ前（青森市）
- ⑤ 地元2紙への無料広告の掲載依頼
- ⑥ 県内市町村の広報誌への掲載
- ⑦ 県政記者会へ労働相談会についての情報提供
- ⑧ 関係機関への労働相談会のチラシ等の備え置き
（県内6地域県民局、市町村、労働局、労働基準監督署、ハローワーク、法テラス、ジョブカフェ、連合青森、県労連、県経営者協会、県弁護士会、県社労士会等）
- ⑨ 関係機関の情報誌や求人情報誌への掲載
（連合青森、青森県労働協会、青森県経営者協会、月刊 Be-job 等）
- ⑩ 労働相談ダイヤルによる相談対応等
- ⑪ 青い森鉄道(株)への車両広告
（平成30年3月18日～6月17日）

2 平成30年の委員・職員の資質の維持・向上を図るための取組

- ① 中労委が開催する公労使委員研修の受講
- ② ブロック研修会等への参加
- ③ ブロック会議の研修課題に対する委員・職員の研修会の開催（年2回）
- ④ 各側委員等による研修会の開催（年4回）
- ⑤ 新任委員に対する実務研修（あっせん員への指名）

(資料)

1 審査事件取扱状況

(1) 不公正労働事件（昭和21年3月～昭和24年6月）

(単位：件)

区分 年次	取扱件数			終結件数			次年繰越
	前年繰越	新規申立	計	処罰請求	関与和解	計	
昭21		1	1				1
22	1		1	1		1	0
23		3	3	2	1	3	0
24		1	1		1	1	0
計	1	5	6	3	2	5	1

(2) 不当労働行為事件（昭和24年6月～平成30年）

(単位：件)

区分 年次	取扱件数			終結件数									次年繰越	
	前年繰越	新規申立	計	取下・和解				命令・決定						合計
				取 下	無 関 与	関 与	小 計	全 部 救 済	一 部 救 済	棄 却	却 下	小 計		
昭24		2	2		1		1	1				1	2	0
25		7	7	1	3	2	6	1				1	7	0
26		8	8		5		5		1	1	1	3	8	0
27			0				0					0	0	0
28		5	5	1	2		3	1				1	4	1
29	1	9	10		4	2	6		1	1		2	8	2
30	2	7	9		5	3	8	1				1	9	0
31		3	3	2	1		3					0	3	0
32		7	7		5		5					0	5	2
33	2	6	8		2	3	5		3			3	8	0
34		6	6	1		3	4	1				1	5	1
35	1	10	11		4	4	8					0	8	3
36	3	4	7			4	4			1		1	5	2
37	2	1	3	1			1					0	1	2
38	2	3	5			2	2					0	2	3
39	3		3	1			1					0	1	2

(単位：件)

区分 年次	取扱件数			終 結 件 数									合 計	次 年 繰 越
	前 年 繰 越	新 規 申 立	計	取 下 ・ 和 解				命 令 ・ 決 定						
				取 下	無 関 与	関 与	小 計	全 部 救 済	一 部 救 済	棄 却	却 下	小 計		
昭40	2	4	6	1	1		2	2	1			3	5	1
41	1	9	10		2	1	3					0	3	7
42	7	9	16	2	1	2	5			1		1	6	10
43	10	2	12	2	3		5	1				1	6	6
44	6	10	16	4	3	2	9					0	9	7
45	7	15	22		4	2	6				1	1	7	15
46	15	11	26		9	3	12	1				1	13	13
47	13	15	28	1	6	2	9	2				2	11	17
48	17	2	19		13	1	14					0	14	5
49	5	37	42	2	3	6	11					0	11	31
50	31	34	65	1	3	1	5	1				1	6	59
51	59	22	81		53	3	56	5				5	61	20
52	20	17	37	2	12	2	16	2				2	18	19
53	19	16	35	4	4	13	21	1	1			2	23	12
54	12	5	17	3	2	3	8					0	8	9
55	9	14	23	1		3	4	2	2			4	8	15
56	15	18	33	1	6	3	10	1	1			2	12	21
57	21	16	37	1	4	4	9	2	1			3	12	25
58	25	33	58	4	7	3	14	5				5	19	39
59	39	13	52	2	1	9	12					0	12	40
60	40	7	47	1		4	5	2	2			4	9	38
61	38	5	43	6	1	3	10	1	2			3	13	30
62	30	13	43	1	4		5					0	5	38
63	38	4	42	1	1	16	18					0	18	24
平 元	24	5	29	1	4	3	8					0	8	21
2	21	7	28	12		2	14		3			3	17	11
3	11	1	12	2		1	3		3			3	6	6
4	6	2	8			2	2					0	2	6
5	6	5	11		2		2		1			1	3	8
6	8	2	10	3		3	6	2				2	8	2
7	2	2	4	1			1					0	1	3
8	3	4	7	1		4	5		1			1	6	1
9	1	3	4		1	1	2					0	2	2

(単位：件)

区分 年次	取扱件数			終 結 件 数									合 計	次 年 繰 越	
	前 年 繰 越	新 規 申 立	計	取 下 ・ 和 解				命 令 ・ 決 定							
				取 下	無 関 与	関 与	小 計	全 部 救 済	一 部 救 済	棄 却	却 下	小 計			
平 1 0	2	3	5			2	2						0	2	3
1 1	3	2	5				0						0	0	5
1 2	5	4	9			1	1		1	2			3	4	5
1 3	5	3	8		1	5	6						0	6	2
1 4	2	1	3	1	1	1	3						0	3	0
1 5		3	3		1		1						0	1	2
1 6	2		2		1		1						0	1	1
1 7	1		1			1	1						0	1	0
1 8		2	2				0						0	0	2
1 9	2	2	4			2	2						0	2	2
2 0	2		2			2	2						0	2	0
2 1		2	2	1			1						0	1	1
2 2	1	3	4			1	1						0	1	3
2 3	3	2	5			1	1						0	1	4
2 4	4		4	1		3	4						0	4	0
2 5		2	2			2	2						0	2	0
2 6		1	1			1	1						0	1	0
2 7		1	1			1	1						0	1	0
2 8		1	1				0						0	0	1
2 9	1		1			1	1						0	1	0
3 0		1	1												1
計	610	473	1083	70	186	149	405	35	24	6	2	67	472		

2 調整事件取扱状況

(単位：件)

区分 年次	総取扱件数			あっせん				調停				仲裁			
	繰越	新規	計	取扱件数			繰越	取扱件数			繰越	取扱件数			繰越
				繰越	新規	計		繰越	新規	計		繰越	新規	計	
	昭21		2	2					2	2					
22		14	14		10	10	1	4	4	2					
23	3	15	18	1	14	15	1	2	1	3					
24	1	17	18	1	12	13		4	4	2		1	1		
25	2	14	16		10	10		2	4	6					
26		5	5		2	2		3	3						
27		10	10		6	6	2	4	4						
28	2	11	13	2	10	12	1	1	1						
29	1	15	16	1	12	13		3	3						
30		14	14		10	10		4	4						
31		4	4		3	3	1	1	1						
32	1	35	36	1	33	34		2	2						
33		30	30		27	27		3	3						
34		40	40		38	38	1	2	2						
35	1	20	21	1	18	19	1	2	2						
36	1	42	43	1	41	42	10	1	1						
37	10	21	31	10	21	31									
38		15	15		13	13	1	2	2						
39	1	15	16	1	13	14	1	2	2						
40	1	19	20	1	15	16	1	3	3			1	1		
41	1	13	14	1	11	12	1	1	1			1	1		
42	1	15	16	1	15	16	4								
43	4	14	18	4	12	16	2	2	2						
44	2	15	17	2	15	17	1								
45	1	20	21	1	19	20	2	1	1						
46	2	22	24	2	21	23	1	1	1						
47	1	22	23	1	20	21	1	1	1	1		1	1		
48	2	18	20	1	15	16		1	3	4					
49		33	33		32	32	4	1	1						
50	4	35	39	4	31	35	2	4	4						
51	2	21	23	2	21	23	3								
52	3	13	16	3	13	16	2								
53	2	16	18	2	16	18	3								

(単位：件)

区分 年次	総取扱件数			あっせん			調停				仲裁				
	繰越	新規	計	取扱件数			繰越	取扱件数			繰越	取扱件数			繰越
				繰越	新規	計		繰越	新規	計		繰越	新規	計	
昭54	3	13	16	3	13	16	1								
55	1	18	19	1	18	19	3								
56	3	23	26	3	23	26	5								
57	5	30	35	5	28	33	8		1	1			1	1	1
58	9	25	34	8	23	31	10		1	1		1	1	2	1
59	11	19	30	10	19	29	10					1		1	
60	10	8	18	10	8	18	7								
61	7	10	17	7	10	17	2								
62	2	10	12	2	10	12	5								
63	5	4	9	5	4	9	3								
平元	3	12	15	3	12	15	5								
2	5	5	10	5	5	10	4								
3	4	4	8	4	4	8	1								
4	1	3	4	1	3	4	2								
5	2	8	10	2	8	10	2								
6	2	6	8	2	6	8	4								
7	4	5	9	4	5	9	3								
8	3	7	10	3	7	10	2								
9	2	3	5	2	3	5	1								
10	1	9	10	1	9	10	2								
11	2	5	7	2	5	7	1								
12	1	6	7	1	6	7	1								
13	1	5	6	1	5	6	1								
14	1	5	6	1	5	6									
15		4	4		4	4									
16		4	4		4	4	1								
17	1	7	8	1	7	8	2								
18	2	3	5	2	3	5									
19		2	2		2	2									
20		4	4		4	4	1								
21	1	8	9	1	8	9									
22		2	2		2	2									
23		4	4		4	4									
24		1	1		1	1	1								

(単位：件)

区分 年次	総取扱件数			あっせん			調停				仲裁				
	繰 越	新 規	計	取扱件数			繰 越	取扱件数			繰 越	取扱件数			繰 越
				繰 越	新 規	計		繰 越	新 規	計		繰 越	新 規	計	
平 2 5	1	3	4	1	3	4									
2 6		3	3		3	3									
2 7		4	4		4	4									
2 8		2	2		2	2	1								
2 9	1	3	4	1	3	4	2								
3 0	2	3	5	2	3	5	1								
計	145	915	1060	138	845	983	139	5	64	69	5	2	6	8	2

3 個別的労使紛争に係るあっせん事件取扱状況

(単位：件)

区分 年次	取扱件数			終結件数					次 年 繰 越
	前 年 から の 繰 越	新 規 申 立	計	解 決	打 切	取 下	不 開 始	計	
平13		1	1					0	1
14	1	2	3	1	1	1		3	
15			0					0	
16			0					0	
17		2	2	1	1			2	
18		3	3	1	2			3	
19		1	1		1			1	
20			0					0	
21		1	1		1			1	
22		4	4	2	1			3	1
23	1	2	3		3			3	
24		4	4	1	2			3	1
25	1	5	6	4	1	1		6	
26		2	2	1	1			2	
27		1	1		1			1	
28		2	2	1	1			2	
29		2	2		1			1	1
30	1	7	8	3	1	2		6	2
計	4	39	43	15	18	4	37	37	6

第3章 歴代委員名簿

(第1期～第47期)

歴代委員名簿

◎ 会長

○ 会長代理

公益委員	労働者委員	使用者委員
第1期 (昭21. 3. 12~22. 4. 7)		
◎秋 田 徳 三 ○岩 淵 謙 一 田 中 敬 三 橋 本 八右エ門 石 田 正 三	大 沢 久 明 宮 本 鋭 福 士 庄之助 棟 方 久 馬 西 村 菊次郎	秋 庭 武 定 内 山 虎之助 岡 部 治 恒 牧 浦 好之助 吉 井 勇
第2期 (昭22. 4. 8~23. 5. 7)		
◎秋 田 徳 三 ○山 岸 龍 岩 淵 謙 一 東 義 寿 明 比 達 朗	工 藤 嘉右エ門 三 上 齋太郎 佐 藤 義 男 伊 藤 四 郎 加 藤 清 作	秋 庭 武 定 (~昭22. 10. 22) 服 部 政 一 田 中 慶 治 (昭22. 10. 22~22. 12. 15) 横 井 太 郎 (~昭22. 6. 26) 斉 藤 忠 二 (~昭22. 10. 22) 杉 田 則 敏 (~昭22. 11. 1) 小 野 吾 郎 (昭22. 6. 26~) 穂 積 賢 一 (昭22. 10. 22~) 桜 庭 一 男 (昭22. 11. 1~) 小 林 恵次郎 (昭22. 12. 23~)

公 益 委 員	労 働 者 委 員	使 用 者 委 員
第 3 期 (昭23. 5. 8~24. 5. 7)		
◎佐々木 格 三 (~昭24. 1. 18) 石 館 直 三 ○(~昭24. 1. 18) ◎ (昭24. 1. 19~) 明 比 達 朗 寺 井 俊 正 神 守 夫 ○ (昭24. 1. 19~)	一 戸 長 造 福 沢 貞 次 岡 野 忠 三 櫛 引 源 吾 佐 藤 七郎次	服 部 政 一 穂 積 賢 一 小笠原 武 一 松 井 清 藤 山 洋 吉
第 4 期 (昭24. 5. 8~25. 5. 7)		
◎明 比 達 朗 ○石 館 直 三 寺 井 俊 正 柳 谷 礼 三 芥 藤 馨	佐 藤 七郎次 桜 庭 範 対 馬 四 蔵 神 哲 夫 佐々木 秀 文	服 部 政 一 小 林 麟太郎 藤 山 洋 吉 (~昭24. 10. 30) 河 本 才太郎 船 越 東 一 穂 積 賢 一 (昭25. 1. 10~)
第 5 期 (昭25. 5. 8~26. 5. 11)		
◎猪 股 博 ○明 比 達 朗 山 口 寿 小 野 久 三 雨 森 卓三郎	桜 庭 範 対 馬 四 蔵 神 哲 夫 佐々木 秀 文 福 田 敬 治	服 部 政 一 河 本 才太郎 小 林 麟太郎 児 玉 高 英 後 藤 健 次

公 益 委 員	労 働 者 委 員	使 用 者 委 員
第6期 (昭26. 5. 12~27. 6. 6)		
◎木 村 美根三 ○小 田 信 士 猪 股 博 小 野 久 三 西 沢 良 蔵	神 哲 夫 福 田 敬 治 石 鉢 勝 治 住 沢 春 松 渡 辺 茂	服 部 政 一 河 本 才太郎 児 玉 高 英 後 藤 健 次 桑 田 善太郎
第7期 (昭27. 6. 7~28. 6. 7)		
◎小 田 信 士 ○西 沢 良 蔵 木 村 美根三 佐 藤 七郎次 横 岡 莊之助 (~昭27. 6. 10) 相 内 禎 介 (昭27. 9. 1~)	石 鉢 勝 治 千 葉 民 蔵 最 上 孝 悦 工 藤 武 治 尾 崎 賢 治	服 部 政 一 小 林 麟太郎 (~昭27. 7. 31) 竹 中 喜一郎 其 田 平 一 佐々木 隆 蔵 桑 田 善太郎 (昭27. 8. 1~)
第8期 (昭28. 6. 8~29. 6. 7)		
◎木 村 美根三 ○竹 内 俊 吉 渡 辺 金次郎	最 上 孝 悦 福 田 敬 治 佐々木 秀 文	服 部 政 一 其 田 平 一 後 藤 健 次
第9期 (昭29. 6. 8~30. 9. 30)		
◎木 村 美根三 竹 内 俊 吉 ○(~昭30. 1. 31) 相 内 禎 介 ○(昭30. 3. 1~) 石 崎 宣 雄 西 沢 良 蔵 坂 本 功 (昭30. 2. 19~)	最 上 孝 悦 福 田 敬 治 江 渡 金一郎 櫛 引 唯 治 立 花 銀 三	服 部 政 一 後 藤 健 次 荒 川 謙 治 中 村 堯 太 田 誠一郎 (~昭29. 12. 16) 田 中 慶 治 (昭29. 12. 25~)

公 益 委 員	労 働 者 委 員	使 用 者 委 員
第 1 0 期 (昭30. 10. 1~31. 10. 31)		
◎木 村 美根三 ○相 内 禎 介 坂 本 功 石 崎 宣 雄 柿 崎 守 忠	最 上 孝 悦 福 田 敬 治 立 花 銀 三 坂 本 善 正 佐 藤 慶 一	服 部 政 一 後 藤 健 次 中 村 堯 (～昭30. 10. 20) 石 川 金 蔵 和 田 寛次郎 菊 池 武 正 (昭30. 10. 25～)
第 1 1 期 (昭31. 11. 1~32. 10. 31)		
◎木 村 美根三 ○相 内 禎 介 坂 本 功 柿 崎 守 忠 小 田 信 士	最 上 孝 悦 立 花 銀 三 (～昭32. 5. 31) 佐 藤 慶 一 玉 村 公 道 土 田 幸 夫 中 野 吉 雄 (昭32. 7. 1～)	服 部 政 一 石 川 金 蔵 和 田 寛次郎 菊 池 武 正 (～昭32. 3. 31) 福 地 義 男 田 中 年 男 (昭32. 4. 1～)
第 1 2 期 (昭32. 11. 1~33. 10. 31)		
◎木 村 美根三 ○相 内 禎 介 坂 本 功 小 田 信 士 楠 美 知 行	最 上 孝 悦 佐 藤 慶 一 石 鉢 勝 治 小野寺 辰 雄 外 崎 守 雄	服 部 政 一 石 川 金 蔵 田 中 年 男 福 地 義 男 山 口 義 亮

公 益 委 員	労 働 者 委 員	使 用 者 委 員
第 1 3 期 (昭33. 11. 1~34. 10. 31)		
◎木 村 美根三 (~昭34. 10. 15) ○相 内 禎 介 坂 本 功 楠 美 知 行 山 本 省 一	最 上 孝 悦 (~昭34. 4. 8) 佐 藤 慶 一 (~昭34. 4. 18) 小野寺 辰 雄 (~昭34. 4. 16) 土 田 幸 夫 磯 田 登 石 山 昌 蔵 (昭34. 6. 1~) 名久井 功 雄 (昭34. 6. 1~) 佐 藤 孝之助 (昭34. 6. 1~)	服 部 政 一 石 川 金 蔵 田 中 年 男 山 口 義 亮 船 本 権次郎
第 1 4 期 (昭34. 11. 1~35. 10. 31)		
◎相 内 禎 介 ○坂 本 功 楠 美 知 行 山 本 省 一 寺 井 俊 正	土 田 幸 夫 磯 田 登 名久井 功 雄 佐 藤 孝之助 成 田 文 雄	服 部 政 一 山 口 義 亮 船 本 権次郎 高 橋 文 雄 樽 沢 武 任
第 1 5 期 (昭35. 11. 1~36. 10. 31)		
◎相 内 禎 介 ○坂 本 功 楠 美 知 行 山 本 省 一 関 谷 耕 一	土 田 幸 夫 磯 田 登 名久井 功 雄 佐 藤 孝之助 成 田 文 雄	服 部 政 一 山 口 義 亮 船 本 権次郎 高 橋 文 雄 樽 沢 武 任

公 益 委 員	労 働 者 委 員	使 用 者 委 員
第 1 6 期 (昭36. 11. 1~37. 10. 31)		
◎相 内 禎 介 ○坂 本 功 楠 美 知 行 山 本 省 一 中 林 裕 一	土 田 幸 夫 磯 田 登 名久井 功 雄 佐 藤 孝之助 成 田 文 雄	服 部 政 一 山 口 義 亮 船 本 権次郎 高 橋 文 雄 小 野 弘 行
第 1 7 期 (昭37. 11. 1~38. 10. 31)		
◎相 内 禎 介 ○坂 本 功 楠 美 知 行 中 林 裕 一 寺 山 敬 正	土 田 幸 夫 磯 田 登 名久井 功 雄 佐 藤 孝之助 成 田 文 雄	服 部 政 一 船 本 権次郎 小 野 弘 行 沼 田 吉 蔵 渡 辺 泰 助
第 1 8 期 (昭38. 11. 1~39. 10. 31)		
◎相 内 禎 介 ○坂 本 功 楠 美 知 行 中 林 裕 一 寺 井 敬 正	土 田 幸 夫 磯 田 登 名久井 功 雄 佐 藤 孝之助 (～昭39. 6. 30) 成 田 文 雄 坂 本 善 正 (昭39. 7. 1～)	服 部 政 一 小 野 弘 行 沼 田 吉 蔵 渡 辺 泰 助 木 幡 清 甫
第 1 9 期 (昭39. 11. 1~40. 10. 31)		
◎相 内 禎 介 ○坂 本 功 中 林 裕 一 相 沢 文 蔵 尾 崎 竹 四 郎	土 田 幸 夫 磯 田 登 名久井 功 雄 成 田 文 雄 山 形 陽 一	服 部 政 一 小 野 弘 行 沼 田 吉 蔵 渡 辺 泰 助 木 幡 清 甫

公 益 委 員	労 働 者 委 員	使 用 者 委 員
第 2 0 期 (昭40. 11. 1~41. 10. 31)		
◎相 内 禎 介 ○坂 本 功 中 林 裕 一 相 沢 文 蔵 尾 崎 竹四郎	土 田 幸 夫 名久井 功 雄 山 形 陽 一 加 川 光 義 小 野 公	服 部 政 一 小 野 弘 行 沼 田 吉 蔵 渡 辺 泰 助 木 幡 清 甫 (～昭41. 2. 8) 大 沢 久 二 (昭41. 3. 1～)
第 2 1 期 (昭41. 11. 1~43. 10. 31)		
◎相 内 禎 介 ○中 林 裕 一 相 沢 文 蔵 尾 崎 竹四郎 山 崎 敏 夫	山 形 陽 一 加 川 光 義 小 野 公 成 田 萬 苺 田 市 蔵	服 部 政 一 小 野 弘 行 沼 田 吉 蔵 渡 辺 泰 助 (～昭42. 10. 3) 大 沢 久 二 竹 林 誠 六 (昭42. 10. 4～)
第 2 2 期 (昭43. 11. 1~45. 10. 31)		
◎相 内 禎 介 ○中 林 裕 一 山 崎 敏 夫 小 林 時三郎 村 木 市太郎	山 形 陽 一 (～昭44. 8. 31) 加 川 光 義 小 野 公 苺 田 市 蔵 成 田 萬 (～昭44. 6. 30) 杉 木 廣 (昭44. 7. 1～) 坂 本 善 正 (昭44. 9. 1～)	服 部 政 一 沼 田 吉 蔵 (～昭44. 12. 23) 大 沢 久 二 竹 林 誠 六 (～昭45. 1. 30) 内 山 一 鈴 木 正 三 (昭45. 1. 19～) 三 國 智 造 (昭45. 1. 31～)

公 益 委 員	労 働 者 委 員	使 用 者 委 員
第 2 3 期 (昭45. 11. 1~47. 10. 31)		
◎相 内 禎 介 ○中 林 裕 一 山 崎 敏 夫 小 林 時三郎 村 木 市太郎	加 川 光 義 小 野 公 苧 田 市 蔵 (～昭46. 4. 14) 杉 木 廣 須 藤 健 夫 名久井 功 雄 (昭46. 4. 15～)	服 部 政 一 大 沢 久 二 鈴 木 正 三 三 國 智 造 葛 西 敏 男
第 2 4 期 (昭47. 11. 1~49. 10. 31)		
◎相 内 禎 介 ○中 林 裕 一 小 林 時三郎 (～昭48. 5. 26) 村 木 市太郎 葛 西 幸 雄 関 谷 耕 一 (昭48. 5. 26～)	加 川 光 義 杉 木 廣 須 藤 健 夫 (～昭48. 6. 20) 名久井 功 雄 野 呂 健 栄 (～昭49. 8. 16) 佐 藤 孝之助 (昭48. 6. 26～)	服 部 政 一 大 沢 久 二 三 國 智 造 葛 西 敏 男 角 田 米 徳
第 2 5 期 (昭49. 11. 1~51. 10. 31)		
◎相 内 禎 介 ○中 林 裕 一 村 木 市太郎 葛 西 幸 雄 関 谷 耕 一	加 川 光 義 杉 木 廣 名久井 功 雄 (～昭50. 5. 23) 佐 藤 孝之助 千 葉 光 弘 小保内 寿 郎 (昭50. 5. 24～)	服 部 政 一 大 沢 久 二 三 國 智 造 葛 西 敏 男 角 田 米 徳

公 益 委 員	労 働 者 委 員	使 用 者 委 員
第 2 6 期 (昭51. 11. 1~53. 10. 31)		
◎相 内 禎 介 ○中 林 裕 一 葛 西 幸 雄 関 谷 耕 一 越 後 緑 也	加 川 光 義 杉 木 廣 佐 藤 孝之助 (～昭52. 8. 31) 小保内 寿 郎 神 喜美雄 須 藤 健 夫 (昭52. 9. 1～)	服 部 政 一 大 沢 久 二 葛 西 敏 男 武 田 慶 吉 梅 内 敏 浩 (～昭53. 1. 20) 若 山 修 (昭53. 1. 21～)
第 2 7 期 (昭53. 11. 1~55. 10. 31)		
◎相 内 禎 介 ○中 林 裕 一 関 谷 耕 一 越 後 緑 也 貝 出 繁 之	杉 木 廣 小保内 寿 郎 神 喜美雄 須 藤 健 夫 (昭53. 11. 1～54. 3. 23) (昭54. 10. 1～55. 10. 31) 美濃 玲児	服 部 政 一 大 沢 久 二 葛 西 敏 男 武 田 慶 吉 若 山 修
第 2 8 期 (昭55. 11. 1~57. 10. 31)		
◎高 橋 牧 夫 ○関 谷 耕 一 貝 出 繁 之 渡 辺 利 雄 秋 田 立 郎 (～昭56. 4. 4) 丹 藤 信 吉 (昭56. 5. 16～)	杉 木 廣 小保内 寿 郎 神 喜美雄 須 藤 健 夫 美 濃 玲 児	服 部 政 一 大 沢 久 二 葛 西 敏 男 若 山 修 佐々木 誠 造

公 益 委 員	労 働 者 委 員	使 用 者 委 員
第 2 9 期 (昭57. 11. 1~59. 10. 31)		
◎高 橋 牧 夫 ○関 谷 耕 一 貝 出 繁 之 渡 辺 利 雄 丹 藤 信 吉	杉 木 廣 小保内 寿 郎 美 濃 玲 児 角 田 陸奥美 小 野 公	服 部 政 一 大 沢 久 二 葛 西 敏 男 佐々木 誠 造 対 馬 昌 平
第 3 0 期 (昭59. 11. 1~61. 10. 31)		
◎高 橋 牧 夫 ○関 谷 耕 一 貝 出 繁 之 渡 辺 利 雄 高 杉 正 秋	杉 木 廣 小保内 寿 郎 美 濃 玲 児 角 田 陸奥美 小 野 公	服 部 政 一 大 沢 久 二 葛 西 敏 男 (～昭61. 3. 30) 佐々木 誠 造 (～昭61. 3. 31) 藤 内 富 生 三 國 智 造 (昭61. 4. 1～) 竹 田 良 三 (昭61. 5. 1～)
第 3 1 期 (昭61. 11. 1~63. 10. 31)		
◎高 橋 牧 夫 ○関 谷 耕 一 貝 出 繁 之 渡 辺 利 雄 高 杉 正 秋	杉 木 廣 小保内 寿 郎 角 田 陸奥美 (～昭62. 7. 31) 花 田 敏 夫 船 越 弘 造 中 村 昭 弘 (昭61. 8. 1～)	服 部 政 一 大 沢 久 二 藤 内 富 生 三 國 智 造 竹 田 良 三

公 益 委 員	勞 働 者 委 員	使 用 者 委 員
第 3 2 期 (昭63. 11. 1~平 2. 10. 31)		
◎高 橋 牧 夫 ○関 谷 耕 一 貝 出 繁 之 渡 辺 利 雄 高 杉 正 秋	杉 木 廣 小保内 寿 郎 船 越 弘 造 中 村 昭 弘 佐々木 範 夫	服 部 政 一 三 國 智 造 竹 田 良 三 浦 山 昭 二 大 福 康 親
第 3 3 期 (平 2. 11. 1~ 4. 11. 1)		
◎高 橋 牧 夫 ○関 谷 耕 一 貝 出 繁 之 渡 辺 利 雄 高 杉 正 秋	杉 木 廣 小保内 寿 郎 船 越 弘 造 中 村 昭 弘 佐々木 範 夫	服 部 政 一 三 國 智 造 竹 田 良 三 浦 山 昭 二 大 福 康 親
第 3 4 期 (平 4. 11. 2~ 6. 11. 1)		
◎高 橋 牧 夫 ○関 谷 耕 一 貝 出 繁 之 渡 辺 利 雄 中 村 正	小保内 寿 郎 船 越 弘 造 中 村 昭 弘 佐々木 範 夫 小山内 勝 美	服 部 政 一 三 國 智 造 竹 田 良 三 大 福 康 親 村 田 剛 一
第 3 5 期 (平 6. 11. 2~ 8. 11. 1)		
◎高 橋 牧 夫 ○関 谷 耕 一 貝 出 繁 之 渡 辺 利 雄 中 村 正	船 越 弘 造 中 村 昭 弘 佐々木 範 夫 小山内 勝 美 栗 本 章 吉	服 部 政 一 三 國 智 造 竹 田 良 三 大 福 康 親 村 田 剛 一

公 益 委 員	労 働 者 委 員	使 用 者 委 員
第 3 6 期 (平 8. 11. 2~10. 11. 1)		
◎高 橋 牧 夫 ○関 谷 耕 一 渡 辺 利 雄 中 村 正 石 田 恒 久	船 越 弘 造 中 村 昭 弘 佐々木 範 夫 栗 本 章 吉 古 内 熙	三 國 智 造 竹 田 良 三 大 福 康 親 村 田 剛 一 笹 森 悦 郎
第 3 7 期 (平10. 11. 2~12. 11. 1)		
◎高 橋 牧 夫 ○関 谷 耕 一 (～平12. 7. 14) 渡 辺 利 雄 石 田 恒 久 成 田 宏 子 赤 城 国 臣 (平12. 8. 11～)	船 越 弘 造 中 村 昭 弘 (～平11. 9. 30) 佐々木 範 夫 栗 本 章 吉 古 内 熙 (～平11. 9. 30) 西 口 和 夫 (平11. 10. 1～) 佐 藤 勇 (平11. 10. 1～)	三 國 智 造 竹 田 良 三 村 田 剛 一 笹 森 悦 郎 扇 田 實
第 3 8 期 (平12. 11. 2~14. 11. 6)		
◎高 橋 牧 夫 ○石 田 恒 久 成 田 宏 子 赤 城 国 臣 今 喜 典	船 越 弘 造 (～平14. 6. 19) 佐々木 範 夫 栗 本 章 吉 西 口 和 夫 三 上 初 枝 外 崎 祐 一 (平14. 6. 20～)	竹 田 良 三 村 田 剛 一 笹 森 悦 郎 扇 田 實 北 村 真夕美

公 益 委 員	労 働 者 委 員	使 用 者 委 員
第 3 9 期 (平14. 11. 7~16. 11. 7)		
◎高 橋 牧 夫 ○石 田 恒 久 成 田 宏 子 赤 城 国 臣 今 喜 典	佐々木 範 夫 栗 本 章 吉 外 崎 祐 一 一 戸 富美雄 上 野 パティ	竹 田 良 三 村 田 剛 一 笹 森 悦 郎 扇 田 實 北 村 真夕美
第 4 0 期 (平16. 11. 8~18. 11. 7)		
◎石 田 恒 久 ○大 澤 一 實 成 田 宏 子 赤 城 国 臣 今 喜 典	佐々木 範 夫 (～平17. 7. 31) 栗 本 章 吉 外 崎 祐 一 一 戸 富美雄 上 野 パティ 山 内 裕 幸 (平17. 10. 1～)	村 田 剛 一 笹 森 悦 郎 北 村 真夕美 前 田 清 敏 佐 藤 正 勝
第 4 1 期 (平18. 11. 8~20. 11. 7)		
◎石 田 恒 久 ○大 澤 一 實 赤 城 国 臣 今 喜 典 前 田 み き	外 崎 祐 一 (～平19. 6. 30) 上 野 パティ 山 内 裕 幸 宮 古 武 竹 山 美 虎 葛 西 藤八郎 (平19. 9. 1～)	村 田 剛 一 北 村 真夕美 前 田 清 敏 佐 藤 正 勝 (～平19. 6. 30) 小山内 良 一 齊 藤 敏 郎 (平19. 9. 1～)

公 益 委 員	労 働 者 委 員	使 用 者 委 員
第 4 2 期 (平20. 11. 8~22. 11. 7)		
◎石 田 恒 久 ○大 澤 一 實 赤 城 国 臣 今 喜 典 前 田 み き	山 内 裕 幸 上 野 パティ 宮 古 武 竹 山 美 虎 (～平22. 3. 31) 葛 西 藤八郎 石 田 隆 志 (平22. 4. 1～)	北 村 真夕美 前 田 清 敏 齊 藤 敏 郎 (～平22. 6. 30) 沼 田 廣 寺 下 一 之 山 谷 清 人 (平22. 7. 1～)
第 4 3 期 (平22. 11. 8~24. 11. 7)		
◎石 田 恒 久 ○大 澤 一 實 赤 城 国 臣 今 喜 典 前 田 み き	山 内 裕 幸 鈴 木 パティ 宮 古 武 (～平24. 3. 31) 葛 西 藤八郎 石 田 隆 志 小 野 武 司 (平24. 4. 1～)	北 村 真夕美 前 田 清 敏 沼 田 廣 (～平23. 8. 31) 寺 下 一 之 山 谷 清 人 藤 本 和 夫 (平23. 9. 1～)
第 4 4 期 (平24. 11. 8~26. 11. 7)		
◎石 田 恒 久 ○大 澤 一 實 赤 城 国 臣 今 喜 典 前 田 み き	山 内 裕 幸 鈴 木 パティ 石 田 隆 志 (～平26. 6. 30) 小 野 武 司 谷 川 浩 二 内 村 隆 志 (平26. 7. 1～)	北 村 真夕美 寺 下 一 之 山 谷 清 人 (～平25. 6. 30) 藤 本 和 夫 斎 藤 悦 朗 小笠原 裕 (平25. 7. 1～)

公 益 委 員	労 働 者 委 員	使 用 者 委 員
第 4 5 期 (平26. 11. 8~28. 11. 7)		
石 田 恒 久 ◎(~平27. 11. 30) 大 澤 一 實 ○(~平27. 11. 30) ◎ (平27. 12. 1~) 赤 城 国 臣 大 矢 奈 美 岩 谷 直 子 ○ (平27. 12. 1~) 伊 藤 佑 輔 (平27. 12. 1~)	山 内 裕 幸 鈴 木 パ テ ィ 小 野 武 司 谷 川 浩 二 内 村 隆 志	北 村 真 夕 美 寺 下 一 之 藤 本 和 夫 斎 藤 悦 朗 小 笠 原 裕
第 4 6 期 (平28. 11. 8~30. 11. 7)		
◎大 澤 一 實 ○岩 谷 直 子 大 矢 奈 美 伊 藤 佑 輔 細 矢 浩 志	山 内 裕 幸 小 野 武 司 谷 川 浩 二 内 村 隆 志 野 坂 聡 子	北 村 真 夕 美 寺 下 一 之 藤 本 和 夫 斎 藤 悦 朗 小 笠 原 裕
第 4 7 期 (平30. 11. 8~32. 11. 7)		
◎大 澤 一 實 ○岩 谷 直 子 大 矢 奈 美 伊 藤 佑 輔 細 矢 浩 志	山 内 裕 幸 小 野 武 司 谷 川 浩 二 内 村 隆 志 野 坂 聡 子	北 村 真 夕 美 寺 下 一 之 藤 本 和 夫 斎 藤 悦 朗 小 笠 原 裕

この印刷物は、環境にやさしい紙を使用しています。

この印刷物は、140部作成し、印刷経費は1部当たり333円です。